

ふるさと角浜

～海洋学習の実践～



平成 29 年度海洋教育
洋野町立角浜小学校

角浜小学校の海洋学習について

1 海洋学習とは

海を切り口として、総合的な学習の時間や様々な教科で取り組む学習のことです。

2 角浜小学校の海洋学習

海に生き、海とともに歩んできた歴史や文化に目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育むことを目指すのが洋野町の海洋教育です。それをうけて、角浜小学校でも洋野町の海洋学習のねらいに重ね地域に親しみ、海とともに生きる喜びを感じることができるよう学習に取り組んでいます。

3 角浜小学校の海洋学習の内容について

学年	内 容
全校 取組	<ul style="list-style-type: none">・磯掃除・海洋学習発表会
1 ・ 2 年	生活科 「海と仲良し」～角浜のすきなところを伝えよう～ <ul style="list-style-type: none">・海の生き物と触れ合おう。・海まで歩いてみよう。
3 ・ 4 年	総合的な学習の時間 「角浜調査隊」～角浜について知ろう～ <ul style="list-style-type: none">・角浜調査隊・グループごとの課題解決学習
5 ・ 6 年	総合的な学習の時間 ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～ <ul style="list-style-type: none">・種市高等学校で南部もぐり学習・乗船体験・グループごとの課題解決学習

◆全校取組…磯掃除・海洋学習発表会・海洋サミットの様子

1 磯掃除 (7月10日)

晴天の下、元気に出発です。角浜漁港に着くと角浜生産部長の大村文雄さんから海の様子や磯掃除の歴史等についてのお話を聞きました。いよいよ海に出発です。



ツブとりをしています。ツブはウニのえさとなるわかめを食べます。このツブをとることで、角浜のウニを守ることにつながります。



【磯掃除の感想】

- ・くきをとると、エビの赤ちゃんが出てきておもしろかったです。なんか、すごくくすぐったかったです。
- ・ごはんがすごくおいしかったです。石のばしょがすごくきもちよかったです。

ツブとりの後は、海岸をきれにするためにごみ拾いを行います。毎年続けているためか年々ごみの量が少なくなっています。



おいしいお弁当を食べた後は、お待ちかねの磯遊びです。





【磯掃除の感想】

- ・波と戦っておもしろかったです。と中からHくんが波の中に入っておもしろかったです。おもしろかったので、またやりたいです。
- ・ひさしぶりにいそそうじに行っておもしろかったです。自由時間、ぼくとSくんとHくんと波に近づいて遊びました。波があつたり、波からよけたりしました。今度はまた新しい遊び方を考えたいです。

2 海洋学習発表会（11月18日）

今年度は、140周年を記念して角小まつりで海洋教育発表会を行いました。地域の方にも日頃の学習の成果を聞いていただけたよい機会となりました



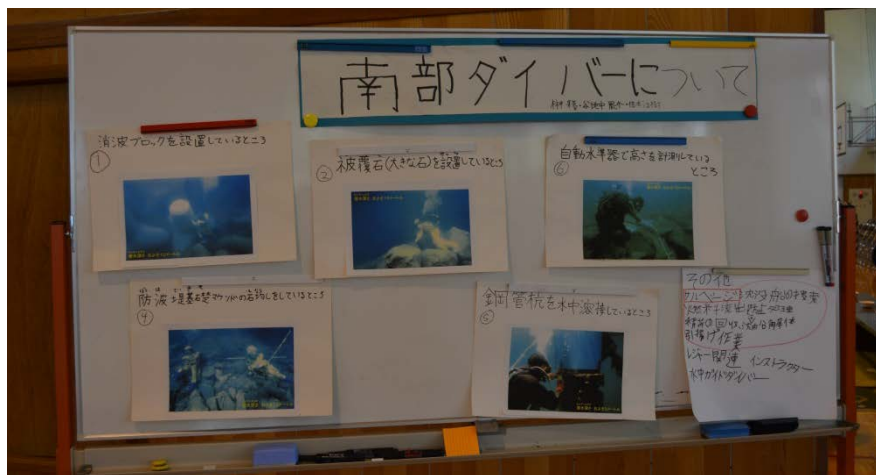
【海まで歩いた感想】

- ・あるいてみてつかれたけど、たのしかったです。うみについたときは、うみが青くきれいだったです。じめんから、かどのはましようがっこうまで55メートルでびっくりしました。かどしようからうみをみたらきれいでした。
- ・はじめてわかったことは、海のおい事です。前は海のおいはどんなにおいだったのかを知りたかったです。海はかいそうのようなおいなんだとはじめて知りました。



【海洋発表会を終えての感想】

- ・発表の声は大きくてよかった。他のグループは、なんぶダイバーのことをしらべたり、料理をしらべたりしてすごかったです。来年は、もっとむずかしいものをしらべたいです。
- ・料理の発表で「ユニバクダン」という料理があるのを知っておどろいた。次に発表するときは、作るものをもっと早くしてじゅんぴをしっかりとしたい。



【海洋学習をふり返って】

- ・私は、去年の角弁の続きとして角の浜の名物を使ったおかしを作りました。とても難しかったけど地域の方に喜んでもらえてうれしかったので、来年もこの企画を受け継いで、色々な人に食べてもらって将来の角の浜の名物にしたいです。この企画はたくさんの方々がかかわってくれたおかげでできたものなので、とてもいいと思いました。そして、来年は短時間でたくさん量を作るということに挑戦したいです。
- ・私は、この勉強を通して通して考えたことがあります。それは、角の浜の海でたくさんの海産物がとれていて角の浜の海はとても大切だなと思いました。これからも角の浜の海をもっと大切にしていきたいと思いました。
- ・ぼくが、この勉強を通して考えたことは二つあります。一つ目は、角の浜は漁業がさかんで色々な海産物がとれます。だから、ぼくは、これからも漁業がさかんな明るい角の浜にしたいと考えました。二つ目は、角の浜の海をきれいに守っている人がいることが分かったので、ぼくも角の浜の海をきれいにしている人に感謝していきたいと考えました。
- ・この一年間を通して、ダイバーのことを色々調べて、角小まつりで地域の人にダイバーの仕事などを伝えることができよかったです。その他にも角浜小学校には、磯掃除などで角の浜の海をきれいにしているいいと思いました。ぼくは、これからも磯掃除をすると海がどんどんきれいになると思うので続けてほしいです。その他にも、海洋の学習で海の大切さを知って、きれいな海を守ってほしいです。
- ・角の浜は海産物が有名だけど、海産物がとれるためには、色々なものがなければならぬと感じました。私たちのグループは船のことを調べました。その時に、船はアワビなどをとるために欠かせないと思いました。船のことについて調べて、船も海産物と同じくらい大事なものだ分かりました。
- ・私は、海洋の中のお菓子作りの企画がとても勉強になったし楽しかったです。できれば、この企画を受け継いでほしいです。わけは、地域の方々とのふれあいも増えるし角の浜の今のことや未来のことも考えることもできるからです。

3 海洋教育こどもサミット in ひろの (8月9日)

洋野町セシリアホールで「第2回海洋教育こどもサミット in ひろの」が行われました。本校からは、4名が発表者として参加しました。さらに、5・6年生の10名が参加しました。

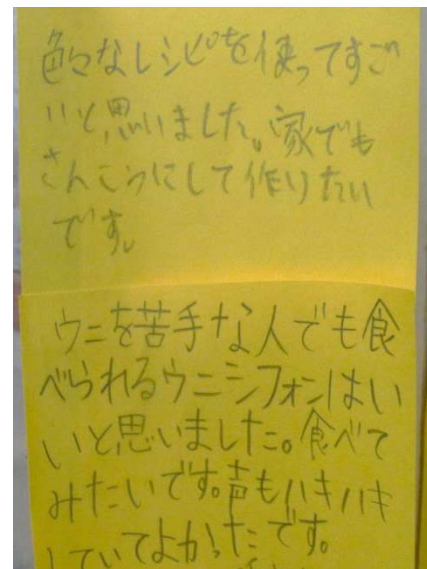
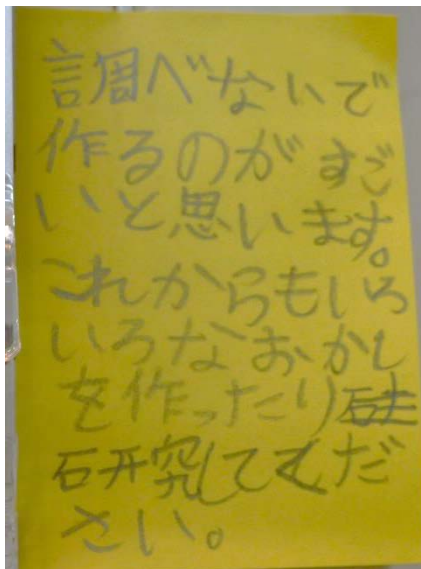
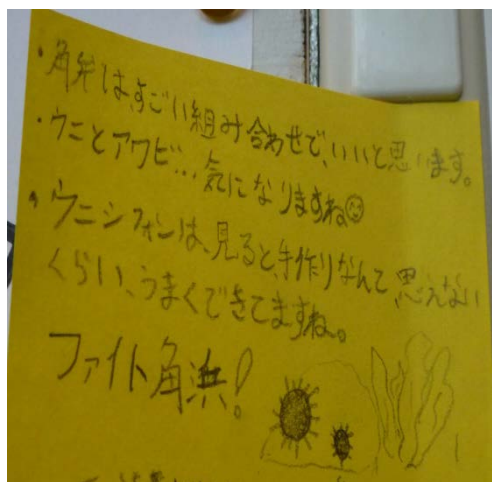


◆発表内容
「料理の中にも角魂」
「名物お菓子の開発」

発表の様子

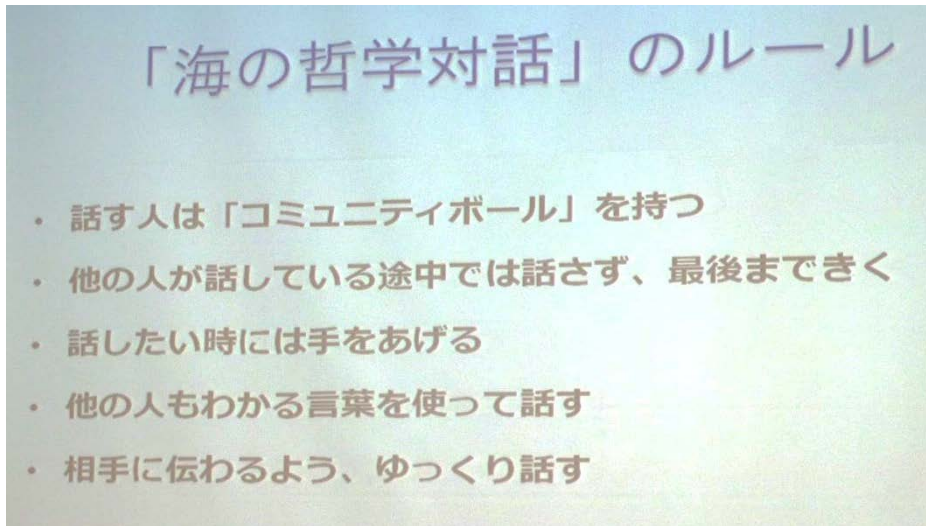


他校の児童からの感想



海の哲学対話

海洋サミットに参加した小学生・中学生・高校生、10名ほどが、グループに分かれて、海についてや、今日の学習で感じたことなどを話し合いました。種市高校の生徒さんが、ファシリテーターとなりグループの話し合いを進めてくれました。



「海をさがしに」

◆ねらい◆

- (1) 角浜地区が海に面していること、地区の暮らしと海との関わりを体験的につかむことで、自分たちの暮らす地域について知ろうとする意欲を育てる。
- (2) 学校や、自分たちの家、地域の様々な場所の違いを見ることで、地域を多角的な視点で捉えようとする気持ちを培う。

◆内容◆

(1) 地域を知る活動 地区探検、磯掃除

海洋学習に取り組む前に、自分たちの地区の様子をつかむため、地区探検を行った。主に地区の南西側を歩き、店や家の多い所、林の多い所など、場所によって様子に違いがあることをつかんだ。この地区探検では、鯨洲神社の見学もして、昔の人たちと海との関わりについて知ることができた。また、別の機会に、地区の方の協力を得てポニー体験を行った。場所は地区の山側で、林の間を通る上り坂を歩いて行った。

磯掃除は、海辺でツブ貝の採取や浜のゴミ拾いをする行事であり、地元の漁業協同組合の協力を得て、長年にわたり毎年行われている。子どもたちは、この活動で海に親しむとともに地域と海との関わりを知った。

実際に地域に出て歩いてみることで、地域の暮らしが海と関わっていること、また、地形的には坂が多いことを体験的につかむことができた。



(2) 課題探究活動

子どもたちなりに課題意識を持って、地域の理解を深めさせたいと考え、学習を進めていくこととした。最初に教室で話し合いをした時、「学校は海の近くだ」と全員が考えてい

た。そこで、「角浜小学校は、本当に海に近いのか」ということをもう一度考え、確かめていく活動をする事とした。具体的には、学校から海までの間の6箇所で海を感じる事ができるかどうか、実際に歩きながら調べた。海を感じるかどうかは、「見えるか」「聞こえるか」「においがするか」の3つの視点で捉えることとし、子どもたち1人1点の点数制で決めた。

○探検に用いた地図（星印は確認した場所）



◆成果◆

- (1) 1学期の磯掃除で海に親しむ活動をした後の学習だったので、海までの距離感をイメージがしやすかった。そのため、学習にスムーズに入ることができた。
- (2) 今まで何となく「海の近くの学校」という考えでいたが、その考えをもう一度振り返ることで、自分たちの地区について見直す機会となった。
- (3) 海まで近いか遠いか、子どもたちによって、考えはまちまちであった。同じ活動をして、様々な捉え方があることを学習することができた。

「角浜調査隊」

◆ねらい◆

- (1)角浜地区にある自然と関わりながら、身の回りの自然に興味や関心をもち、環境に対する豊かな感受性を育てる。
- (2)角浜地区について興味関心をもち、学習テーマを決め、その追究のために調べる活動を行うことにより、地域の歴史や文化を学び、地域を見直し大切にしていこうとする気持ちと態度を育てる。
- (3)自分に必要な情報を収集選択し、まとめ、発信することができる。

◆内容◆

(1)全体共通体験…海辺探検、海岸巨大マップ作り

海洋学習を進めるにあたり、まず、全員で海辺の探検を行った。これは、海辺を自分の目で見て、自分の足で歩いて知るという目的で行った。普段身近にあるけれども、なかなかじっくり見たことのない海という場所を興味をもって見てくることができた。

次に、そこで見てきたものを巨大マップに表す活動を行った。これは、探検で得た学びを集約するという目的で行った。見る人にとって、一目で分かりやすいように、文字よりは、写真や絵を大きく描くことを心がけた。児童は地図を作り上げていくという活動を、大変意欲的に行った。

この二つの活動から、疑問に思ったこと、興味を持ったことを抽出し、グループに分かれて調べ活動していくことを確認した。

海辺探検の様子



巨大マップの様子

(2)課題探究活動…グループごとに活動を進める

共通の体験活動を行った後、自分が解決したい課題を決めグループで活動を行う。今年度は、

- ① ウニの体のつくり ②ウニの増殖溝の研究 ③ウニを使った料理調べ の3つのグループに分かれて活動を行った。

「ウニの体のつくり」

ウニの体について調べた。調べてわかったことはたくさんあったが、発表会に向けて時間の制約があるため、項目を絞った。

ウニの体にある水管や管足などの器官を絵や模型を作って紹介した。

また、普段食べているところは、生殖巣であることをクイズ形式で発表した。



「ウニの増殖溝の研究」

角浜にあるウニの増殖溝について調べた。インターネットで調べても分からないことがたくさんあったため、漁協の角浜生産部長の大村文雄さんに手紙を出し、回答していただいた。

ウニをたくさん生産するために掘った溝であることや、全長や深さ、干潮や満潮の様子について、模型を用意して説明した。



「ウニを使った料理調べ」

ウニを使った料理について調べた。ウニ丼などの定番メニューのほか、ウニばくだんという珍しいメニューも見つけ、発表した。

ウニばくだんの模型を作り、八戸駅で売っていることを紹介したり、自分のお気に入りのメニューをクイズ形式で発表したりした。



◆成果◆

- (1) マップは、昨年度の物に付け足していくことにしたが、有効であった。見つけたものが増えていき、探検エリアも広がっていく過程を見童が実感でき、意欲を持って活動できた。
- (2) グループで課題を解決するために、協力したり、分担したりするなど、調べ活動の方法や手順を学ぶことができた。

5・6年生テーマ

「ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～」

◆ねらい◆

- (1) 角浜地区にある自然と関わりながら、身の回りの自然に興味や関心をもち、環境に対する豊かな感受性を育てる。
- (2) 角浜地区について興味関心をもち、学習テーマを決め、その追究のために調べる活動や様々な製作活動を行うことにより、地域の方々とふれあう楽しさを体感し、地域を見直し大切にしていこうとする気持ちと態度を育てる。
- (3) 自分に必要な情報を収集選択し、まとめ、発信することができる。

◆内容◆

(1) 課題を決めるための体験…種市高等学校見学 乗船体験

海洋学習を進めるにあたり目的を確認し、個人が興味をもった課題を見つけるために一学期は、2つの共通の体験学習を行った。種市高等学校海洋開発科の南部もぐりの実習見学と乗船体験である。種市高等学校では、南部もぐりの歴史やダイバーの仕事、海の中の様子などについて分かりやすく教えていただいた。乗船体験では、角浜漁業組合の大村文雄さんにご協力をいただき角浜の海の中を箱眼鏡で覗いたり海から見える角浜の景色を見たりすることができた。

種市高等学校見学の様子



乗船体験の様子



(2) 課題探究活動…グループごとに活動を進める

共通の体験活動を行った後、課題を決めグループで活動を行う。今年度は、①暮らしを支える船②料理の中にも角魂～名物おかしの開発～③南部ダイバーの仕事④すてきなダイバーの装備の4つのグループに分かれて活動を行った。

「暮らしを支える船」

ウニやアワビをとる船や種市高校の実習船「種市丸」を見学して目的や作りの違いについて調べた。



「料理の中にも角魂～名物おかしの開発～」

角浜の海産物を使った料理を考え実際に調理をした。さらに、講師の先生にウニを使ったサブレの作り方を教えていただき地域の方にふるまうことができた。



「南部ダイバーについて」

種市高校の南部もぐりの実習見学や角浜漁業組合の大村文雄さんにインタビューをしてダイバーの仕事についてまとめた。



「すてきな南部ダイバーの装備」

種市高等学校に見学に行き南部ダイバーの装備に興味をもちダイバーの装備について調べた。発表会では、実際に種市高等学校の方が装備を身につけてくれた。



◆ 成果 ◆

- (1) 1学期に課題を決定するために共通の体験をさせたことは大変有意義だった。共通の体験をもつことで課題を決定しやすくなった。
- (2) 同じ課題をもつ児童同士が課題を解決するために地域の方や講師の先生に教えていただいたり、インタビューをしたりなどを自主的に行うことで意欲が高まった。
- (3) 今年度は、地域の方に海洋学習の発表を聞く機会を設けた。ダイバーの仕事をしている方や料理に興味をもっている大人の方に聞いていただきたくさんの質問や感想をいただき児童の励みとなった。



第 18 回未来に残そう青い海・海上保安図画コンクール
第二管区海上保安本部優秀賞

「カラフルざかな」

 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

 東京大学海洋アライアンス
海洋教育促進
研究センター

 笹川平和財団

©2021 海洋政策研究所